農研NOW

のうけんなう

No.51

令和8年(２０２６年)９月発行
熊本県農業研究センター
※No.50、51は、温暖化（高温）対策特集です！

☆ 目次

P.1 R8熊本地震の被災状況（当センター関係）
P.2 特集！温暖化（高温）対策
P.3 特集！温暖化（高温）対策
P.4 新人です、よろしくお願いします！
　　農研センターに視察に来ませんか!?

特集、温暖化対策！

☆R8熊本地震（震度７）で、複数の研究所が被災！

7月28日（火）午後4時27分、本県で震度７の地震が発生し、県央、県南地域を中心に甚大な被害が発生しました。当センター関係では、アグリシステム総合研究所（八代市）、果樹研究所（宇城市）、茶業研究所（御船町）などで、施設損壊や機器類破損、ナシの落果等が発生しました。
被災後、停電や断水等が発生しましたが、応急復旧に取り組んだ結果、通常の体制に戻りつつあります。


果樹研究所・図書室の書棚が倒れ、書籍が散乱


茶業研究所・大型製茶試験棟の仕切り壁や窓が破損


アグリシステム総合研究所・研究室内は机が倒れ、物品や書籍が散乱


果樹研究所のナシ「秋麗」のほ場収穫間近の果実が落果


アグリシステム総合研究所・畳表織機が破損

☆熊本県農業革新支援センター情報☆

①地震発生地域における台風接近時の農作物被害防止技術対策
②地震で農業用水の確保が困難な地域での用水利用時の留意点
※右のQRコードから、情報を見ることができます。

①台風被害防止対策　②用水確保留意点

○新人です、よろしくお願いします！（研究職編 No.2）

※農業研究センターの本年度新規採用職員13名の内の4名です






私たちは、茶業研究所、草地畜産研究所、アグリシステム総合研究所、天草農業研究所で研究職として働いています。早いもので、入庁後5ヶ月が過ぎました。学ぶことが多く大変ですが、地震からの復旧・復興と県の農業振興のために全力で頑張っています！

○農研センターの取組みをイベントでＰＲ！！

新しい技術や先進的な取組みを紹介しています！

１　九州みどりの食料システムEXPO 2026

会期：2026年10月28日（水）～29日（木）
会場：マリンメッセ福岡 B館 福岡市博多区沖浜町7-1
主催：一般社団法人 日本能率協会（JMA）
入場：事前登録制（ビジネス向け展示会）

２　２０２６くまもと農業フェア＆畜産まつり

会期：2026年11月１４日（土）～１５日（日）
会場：熊本県農業公園・カントリーパーク
主催：農業フェア実行委員会（事務局:JA熊本中央会）
入場：無料
※当日、本物の「天草大王」様が皆さんにごあいさつ！
（体調不良等で不在の時はご容赦願います）


“ココ ケッコー” 会いに来てね！



○視察に来ませんか！？

当センターでは、ご希望に応じて県内の農業や教育関係の方々の訪問視察を受け付けています
県が育成した新品種や開発した新技術について皆さんに紹介し、現場の視察も行います

（申込方法等）

電話で、視察希望の研究所に日程、人数、視察内容等についてご相談ください
日程等が決まったら、申込み書※をメールやFAX等でご提出願います
○実施日時：平日(月～金曜日)の午前9時～午後4時（正午～午後1時以外）
※休館日：休日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)
○問合せ先：本部　管理部視察広報案内員　096-248-6411（内）266

（※申込書様式）

熊本県農業研究センター　KUMAMOTO Pref.
本紙に関するお問い合わせは、企画調整部企画情報課までご連絡ください。
〒861-1113　熊本県合志市栄3801
TEL.096-248-6422　fax096-248-7039
E-mail：noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ　X(旧Twitter)

特集！温暖化（高温）対策

○4月上旬からの遮光がトマト黄変果低減と収量確保に有効である

（R5新技術、No.745）

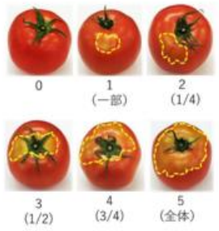
温暖化に伴い収穫後半（4月～6月）の高温期に多発する黄変果対策として、4月上旬からの遮光開始が最適である。果実の温度上昇を防ぎ黄変果を減らし、可販果収量を最大化できる。

【主要な成果】

①黄変果の発生量、発生率は遮光開始が早いほど減少する。

②総収量は遮光開始が早いほど少なくなる。一方で、黄変化が減少するので可販果収量は4/1遮光開始の区が多くなる。

※遮光開始期日：3/15、4/1、4/15



黄変果の程度（5段階）



遮光シートで被覆

○夏秋トマト栽培のハウス内におけるトマトキバガの誘殺消長

（R8成果情報、No.1147）

トマトキバガはR3に本県で見つかり、全国で急拡大中。夏秋栽培では9月以降に増加し、残渣があると発生が続く。栽培後の残渣処理と早期の発生確認、並びに継続的な防除が必要である。

【主要な成果】

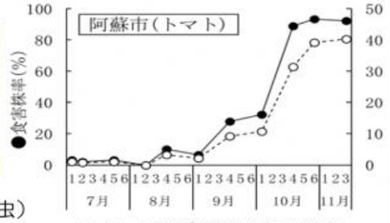
①誘殺は定植時から認められ、累積誘殺数の50％以上が9月以降。

②栽培終了後も、残渣があると誘殺は続くので、残渣の撤去、ハウス内清掃が大変重要。

③年間誘殺数は年々増加⇒地域での防除が必要。



トマトキバガ（幼虫）の食害葉



トマトキバガ食害株率の推移

○温度、施肥および日長がイチゴ「ゆうべに」の花芽分化に及ぼす影響

（R6成果情報、No.1051）

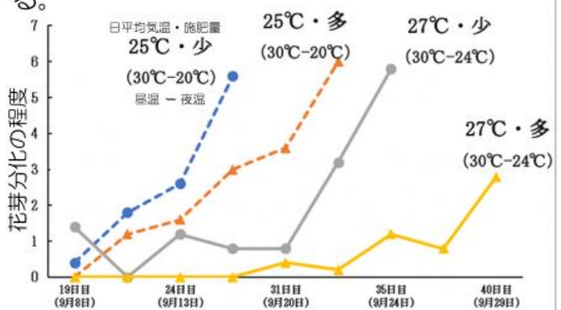
近年、温暖化で花芽分化のバラツキが問題化。花芽分化は日平均気温が高いほど遅れ、特に昼温が影響する。また、施肥量が多いほど分化は遅れ、多施肥条件で日長が長い場合さらに遅くなる。

【主要な成果】

① 日平均気温が高いほど花芽分化が遅く、昼温の影響が大きい。

② 施肥量が多いほど花芽分化が遅れる。

③ 多施肥の場合、日長が長い方が花芽分化が遅れる。



日平均気温と施肥量が花芽分化に及ぼす影響（人工気象室利用）

○いぐさ品種「涼風」は6月中旬収穫作期でも品質良好で収量は十分ある

（R6成果情報、No.1079）

高温期の6月～8月に長期にわたり収穫を行う大規模農家の作業遅延による品質低下解消のため、早刈り品種「涼風」による収穫（通常6月下旬～）の前倒しを検証。6月上旬収穫では品質低下・収量減となるが、6月中旬収穫の場合、収量・品質とも良好。

【主要な成果】

①「涼風」は、収穫開始を6月中旬に前倒しても品質良好で収量は十分ある。

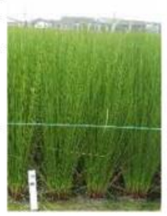
②しかし、6月上旬の収穫では品質・収量とも低下するため避けるべきである。

	a当り乾茎重（kg）		
	75cm以上	105cm以上	120cm以上
6月5日収穫	124.0	78.1（82）	45.5（70）
6月15日収穫	124.9	85.9（91）	55.9（86）
6月27日収穫	124.0	94.9（100）	64.9（100）

収穫物調査結果（3ヶ年平均値）

○いぐさの品質・収量等基準（目安）

- 草丈基準：良品120cm以上（慣行）
- 収量基準：慣行80Kg/㎡
- 適度な硬さ、太さ、光沢　等



早刈品種「涼風」

特集　！　温暖化　（高温）　対策

○ナシ新品種「凛夏（りんか）」の特性

（H28成果情報、No.697）

温暖化により冬の気温が高くなり、「幸水」などで発芽不良や開花異常の発生が一部で見られている。

新品種「凛夏」は、温暖化の影響を受けにくく、暖地でも安定して開花する食味が良い赤ナシである。（R8熊本県果樹推奨品種に選定）

【主要な成果】

①8月上旬頃に収穫され、「幸水」より大玉で日持ち性が良く、糖度は12から13程度でやや酸味があり、食味は「豊水」に近い。

②短果枝の維持（花芽確保）がしやすく、冬の気温が高くても発芽不良が少ない。



ナシ「凛夏」の着果状況

○温州ミカン（平坦園）の高糖度化：シートマルチ栽培における防水防根シート埋設の効果（R5成果情報、No.1039）

温暖化に伴う夏秋期の多雨による温州ミカンの低糖度果発生防止のため、防水防根シートを畝周りに埋めると水分吸収が抑制され、糖度が向上。

ただし、過乾燥になると果実肥大が抑制されるため、その場合はかん水が必要。

【主要な成果】

①畝周りに防水防根シートを埋め、上部をシートマルチで覆って水分を制御すると、根域に雨水が入らず根が水を吸いにくくなり、木の水分ストレスで果実は大きくなりすぎず糖度は上がる。

②水分ストレスが強すぎる時は、かん水が必要。なお、地下水位が高いほ場では効果が弱い。

処理区	2ヵ年平均※		
	1果重（g）	糖度（Brix）	クエン酸濃度（%）
防水防根シート	135	12.6	0.75
慣行	136	11.6	0.78
有意性	n.s	*	n.s

※2021年と2022年の平均値

防水防根シートが品質に及ぼす影響



防水防根シート埋設後

○カンキツ新品種「熊本EC12」（ゆうばれ®）の特性（H30新技術、No.715）

本県では、需要の多い12月に出荷できる中晩柑品種育成の要望が大きかったことから、気候変動による果皮障害が発生しにくく、見た目・食味が良い、早生カンキツを育成した。

【主要な成果】

①果実は、約250g、扁球形、見た目がきれいで１０月に色づき始め、12月に完全着色する。

②食味は、糖度12以上で甘く、酸1％以下、じょうのう膜が薄く、果肉がやわらかいため食味が良好で種が入りにくい。

③クラッキング（ひび割れ）やこはん症はほぼ出ないため栽培しやすい。



熊本EC１２の果実断面



熊本EC１２の着果状況

○水稲「くまさんの輝き」における中干し期間の拡大がメタンガス発生と収量・品質に及ぼす影響（R7新技術、No.761）

温室効果ガスの１つであるメタンガスの削減のため、「中干し」期間を拡大するとメタンガスの排出が大幅減となり、収量を維持しつつ品質も良好であった。

【主要な成果】

①「くまさんの輝き」では、中干し期間を4～7日拡大しても収量は落ちず、玄米品質は向上。

②メタン排出量を大幅に削減できるので、環境負荷低減と生産性の両立が可能な技術である。



水田からのメタンガス採取作業